

社会福祉法人大阪児童福祉事業協会では、清心寮、くるみの家、児童家庭支援センター清心寮（リーフ）とは別に、「アフターケア事業部」（大阪市天王寺区）と自立援助ホーム「そらまめ」、「そらまめnteijima」、「そらまめでしょ」（いずれも大阪市内）を運営しています。

1 アフターケア事業部とは

アフターケア事業部は、育児放棄や児童虐待など、さまざまな事情で親と暮らせず、児童養護施設などの生活を経験した子どもが、施設を退所後社会で自立生活をしていくことが出来るように、出身の施設や関係機関と連携して種々の援助事業を行っています。

活動を開始してから本年度48年目となり、設立された理由は施設を退所した後の子どもたちの多くは、頼れる親族もなく、就労や居住先の確保も困難で、社会的自立が難しいため、支援が必要だからです。

具体的な活動は通信「そらまめくる」というお便りを発送したり、皆で楽しく集う場所の提供や、初就職のお祝いなどの行事も行っていきますが、当事業部が最も重要だ

と考えているのは、相談援助活動です。何故なら子どもたちは様々な悩みを抱えて社会で一人で生活しているからです。

私どもの事務所に昨年度、相談で訪れた方は100人を超えました。施設出身児の相談はほとんどが就労についての切実な悩みです。その悩みも、仕事が辛いとか苦しいなどは少なく、人間関係でつまづいて仕事に行けないという内容がとて多いのです。理由を聞くと「職場の上司や先輩に対しての言葉遣いや接し方がわからない」と人になじめないところで足踏みをして悶々としているのです。彼らは自身でも職場の方々に何故これ程溶け込めないのかわからず、ただ不安定な心を引きずって就労しているので肝心の仕事に集中出来ず、ミスも増え、当然注意も受けるので、ますますやる気も失せてしまいい、つい休みがちとなり、その不安な心の内を上司や先輩にうまく説明出来ず職場で孤立してしまい、結局辞めざるを得なくなってしまう、当事業部に相談に来るのです。

2 SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）

子どもたちのつまづきの原因を

よくよく聞いてみると意外に些細なことが多いことから、施設を出る前に社会への自立に向けての訓練である「リービングケア」の必要性を強く感じたのが、今から12年前でした。以後毎年、中学3年生から高校3年生の子どもたちを対象にSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）と題して1年を通して自立に向けての講習会を開催し、今年度も11回で延べ1170人が参加しました。そしてこの講習会は厚生労働省からも高い評価を得ています。



今年度も平成24年2月4日、シエラトン都ホテル大阪（大阪市天王寺区）にてSST閉講式を迎え、およそ100名に上る参加児童の他、ご来賓として大阪府・大阪市・堺市の課長やSST各回の講師の先生方、施設職員など総勢1

70名が参加しました。その際、公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団様から、就職祝い金も贈呈していただき、式の終わりに、参加児童を代表して中学3年生から4年間で34回もSSTを受講した高校3年生の女子が立派なお礼のあいさつを述べ、受講児童らが大いに成長した姿を見ることができました。

3 おわりに

私どもの活動は、すぐに結果が出て遣り甲斐に繋がるものではありません。ともすればくじけそうになる日々の支援活動の中で一番の特効薬は関わった子どもたちから「アフターケア事業部の皆さんと出会えてよかった！」という言葉です。そういう時は、支援されているのは私たちの方だと強く感じ、感激します。

人と人との出会いは偶然か必然かわかりませんが、私どもアフターケア事業部の職員は子どもたちはもちろんのこと、施設職員や雇用主さん、関係機関の方々との出会いを宝物にしたいと思つて日々活動しています。

（アフターケア事業部

部長 藤川 澄代）